

福祉教育・福祉啓発レポート

実施日時	平成28年9月7日(水)	依頼 件数	対応 件数	日数	コマ 数	調整 数	参加 者数
	9:30 ~ 11:30	2	2	1	2	14	435
テーマ	児童の人権感覚を育成する取り組みを通じて、障がいのある方への理解を深め、互いに認め合うことのできる人権学習を行う。						
学校名	新井小学校						
対象	低学年/高学年						
講師	盲導犬ユーザー 本間さん						
実施場所	体育館						

内容

新井小学校では、当事者や支援者の方による講演を継続して行っています。

今回は、盲導犬ユーザーの本間さんから、視覚障がいや盲導犬のお仕事についてお話いただきました。各クラスで盲導犬に関する事前学習の時間を設けていたこともあり、生徒の皆さんは意欲的にお話を聞いている様子が見られました。

まずは、「目が見えない人」と「見えにくい人」についてお話しがありました。

まぶたを閉じるとぼんやりと明るさを感じます。これが「目が見えにくい人」です。(両目の間に握りこぶしを置くと周りは見えますが、中心が見えなくなります。これも見えにくい状態です)

そのまま、閉じた目をまぶたの上から手で覆うと光が遮られ真っ暗な状態になります。これが「目が見えない人」です。生徒の皆さんも実際に手を当てて、目が見えないとはどういうことなのか体験しました。

本間さんの自宅での生活については、さまざまな工夫で過ごされているというお話を伺いました。しかし、外出する時はそうもいきません。誰かと一緒に歩けることが一番ですが、四六時中というわけにはいきません。白杖という視覚障がい者用の杖もありますが、一人で歩いていると危険を伴うこともあります。そこで、盲導犬の出番です。

授業では、実際に生徒の皆さんの周りを本間さんとスタッフと一緒に歩いてもらいました。障害物をよけながら本間さんの左側を歩くこと、曲がり角にきたら知らせること、階段があることを知らせること、盲導犬にはこの3つのお仕事があります。最後は、時間内では答えられないほどたくさんの質問が生徒の皆さんから出てきました。

盲導犬や視覚障がいについて、テレビなどで知ってはいても、実際に見るのは初めてという生徒がほとんどでした。困っている人を見かけたら手を差し出す「少しの勇気」を持てるように、これからの成長を楽しみにしています。

